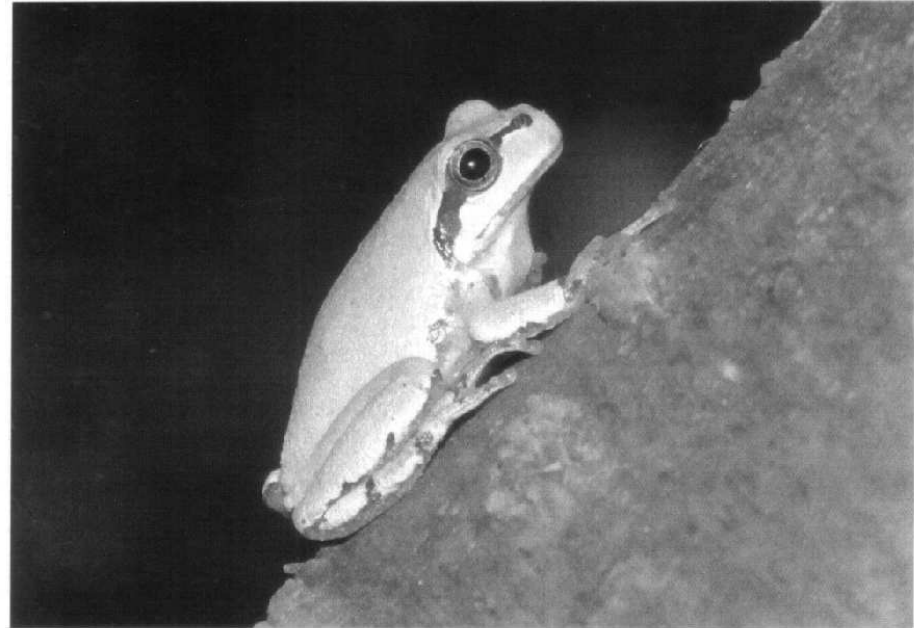


たまいたま 川柳



ニホン雨蛙

日川協加盟

令和3年 (2021年)
7月号 (No.740)

巻頭言

若手棋士トウジウジウ

将棋の藤井聡太氏の活躍振りが、小気味良い旋風を巻き起こしている。あの五角形の将棋駒のフォルムが、何故か日本人のDNAに親近感を与えてくれる。手造り駒の「角」には、突き抜けた縦棒がある。近代化に突っ張っているような意地さえも感じる。狭いようで広い将棋盤も、駒を配した景色を俯瞰すると、目の前が何故か広大な合戦場にも思えてくる。敵味方という思い入れよりも、弱肉強食の宇宙的運命を認め合う潔さが、日本的な一騎打ちの合戦絵図に結びつく。アニメの世界とは異なるのだが。

囲碁の仲邑 董さんの快進撃もまたすごい。宇宙的な精神世界を展開できる囲碁の盤上空間に、歴史的な民族性を想像させる。二色の石で相対する一手限りの勝負という厳粛な緊張感が、思考の深さを導き出す。そこには、将棋とは異なる勝負の思考が求められる。

男女若手棋士の活躍する熱気は、まさに時代性を示しているようにも感じられる。彼らの和服姿もまた、一幅の絵画になる。

この国の、次代の知の世界には有望な若手が多い。大人たちは、安心して議事堂でも国際会議場でも、扇子を手挟みながら、日本的微笑を秘めつつ、大いにニッポンのアピールに邁進して欲しい。

そんな浮世絵的な世界を夢想しているのは、川柳ディレクター 天照東ごもり老人の、細やかな望みである。

願法
みつる

日日是好

石仏もいずれば口を割るだろう
アリガトウ繰り返してる妙な癖
愚かさを教えてくれた遠い雲
梨のツブテに年月が凍り付く
満月と酌むふところの隠し酒

生殺与奪法の解釈

回転木馬敵も味方も

バンザイの声帳簿隠滅

近代ニホン謎の微笑み

天照大神また隠れそう